

# 深地層の研究施設計画検討委員会に おける総括の結果

令和4年2月25日

深地層の研究施設計画検討委員会

# 深地層の研究施設計画に関する令和3年度の成果・実施内容ならびに 令和4年度の計画に対する総括の結果

## 幌延深地層研究計画について

令和3年度の成果に関しては、各必須の課題で予定していた原位置・室内での調査試験や解析が進められており、最終的な目標達成に向けて必要なデータ、知見が着実に得られていることを確認した。特に、これまでに得られている地質環境特性データが、工学技術・安全評価に関する研究開発に有効に活用されており、成果の信頼性向上に寄与していると評価できる。

令和4年度の計画に関しては、「令和2年度以降の幌延深地層研究計画」に沿って、令和3年度までの研究開発の成果が集約されるとともに、今後の坑道における研究が総合的かつ効果的に進められる内容となっており、妥当と考えられる。

## 超深地層研究所計画(瑞浪)について

令和3年度において、深度500mに及ぶ坑道の埋め戻しが当初の計画に沿って、無事故で安全に完了したこと、ならびに工事期間中のモニタリングデータを継続的に取得できていることは、評価できる。

令和4年度以降においては、これまでに得られた貴重な研究資源(瑞浪計画全体の研究データ、ボーリングコア、埋め戻しの計画や作業に関する情報および地下水モニタリングデータなど)の共用化を図るとともに、埋め戻しに伴う環境(地下水圧など)の変化を段階的かつ三次元的に確認できるように情報を整理し、追跡可能な形で確実に管理する取り組みが望まれる。